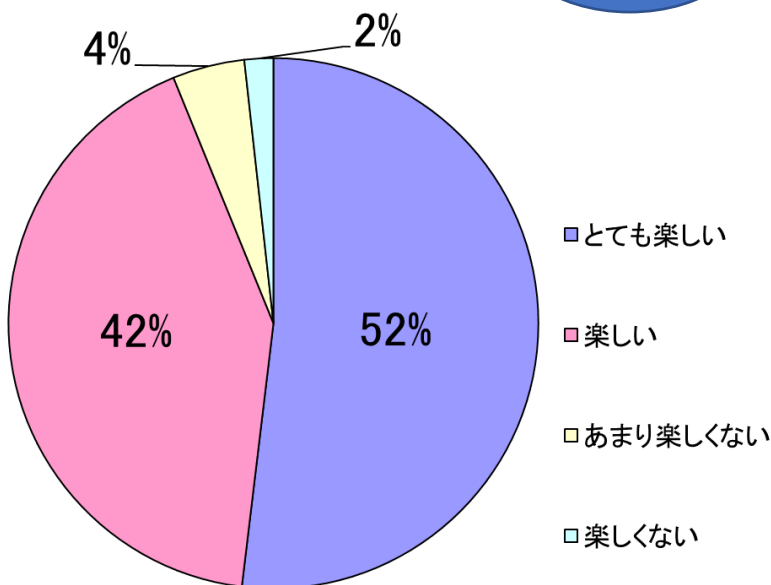


後期
2月実施

1. 学校生活は楽しいですか。



1. 学校生活は楽しいですか

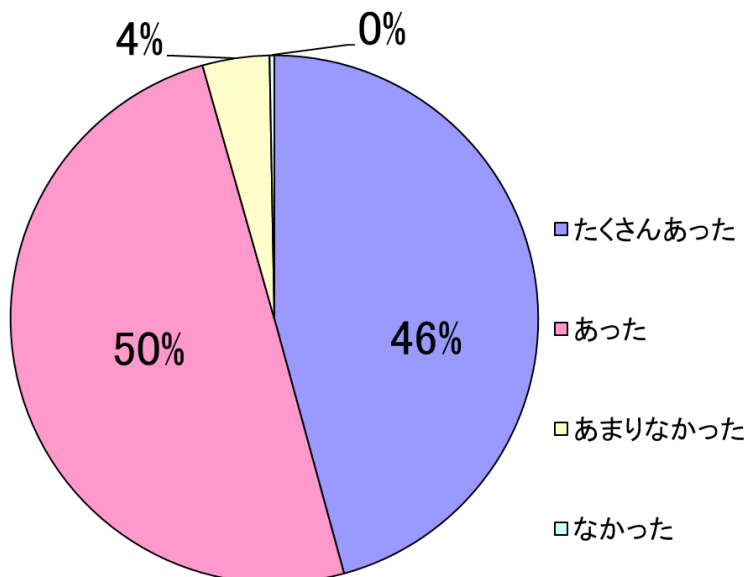
【令和5年度】		94%	↑ 2% up
とても楽しい	52%		
楽しい	42%		
【令和4年度】		92%	
楽しい	63%		
どちらかと言えば楽しい	29%		

「とても楽しい」「楽しい」と回答した児童の合計は94%で、昨年度より2%増加した。大きな増加とは言えないが、依然として9割を超える児童が「学校は楽しい」と感じていることは、大変喜ばしいことである。

児童が「楽しい」と感じる場面はさまざまであると思われるが、どの場面においても、自分の思いが尊重され、自分を自由に表現することができる場があったり、仲間がいたりすることが重要であると考えられる。それらが保障されることで、児童は安心して学校に通うことができ、学校を「楽しい」と感じるのではないかと考える。

今後も、児童の思いや願いが実現されるような学級、学年づくりを目指すために、児童理解や授業の改善に努めていく。

2. クラスの当番・係活動・委員会・実行委員などの活動の中で、自分の役割に進んで取り組むことができたものはありましたか。



2. クラスの当番・係活動・実行委員などの活動の中で、自分の役割に進んで取り組むことができたものはありましたか

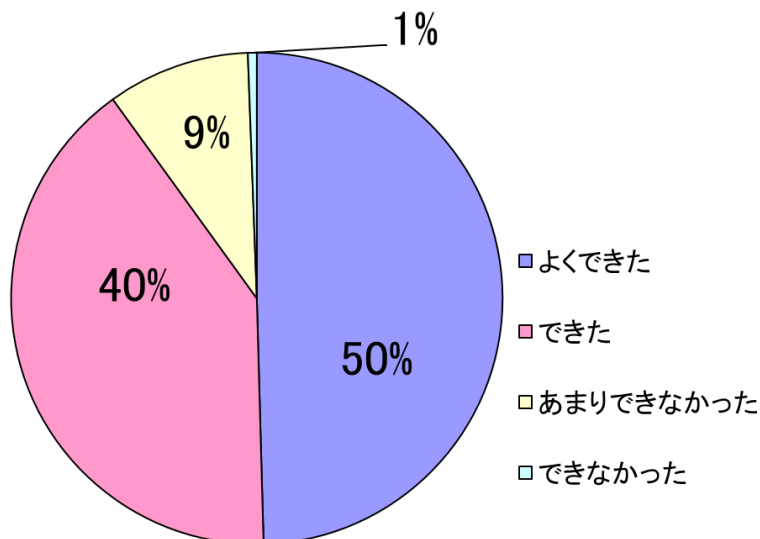
【令和5年度】		96%	↑ 4% up
よくできた	46%		
できた	50%		
【令和4年度】		92%	
よくできた	50%		
できた	42%		

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は96%で、昨年度より4%増加した。

当番や係活動、実行委員の活動などは、学級、学年で創意工夫し実践している。また、高学年においては委員会活動を通して、学校全体にかかわる活動に取り組んでいる。その中で、9割強の児童が「進んで取り組んだ」と感じていることは、学級や学年の取り組み、あるいは学校全体としての取り組みが児童にとって有意義なものであり、一定の成果があったと評価することができる。

今後も、さまざまな特別活動が児童にとって必要感があり、自主的に取り組むことができる活動となるように工夫していく必要がある。

3. 自分や周りの人たちの健康に気を付けて生活することができましたか。



3. 自分や周りの人たちの健康に気を付けて生活することができましたか

【令和5年度】

よくできた 50%
できた 40% } 90%

【令和4年度】

よくできた 45%
できた 44% } 89%

1% up

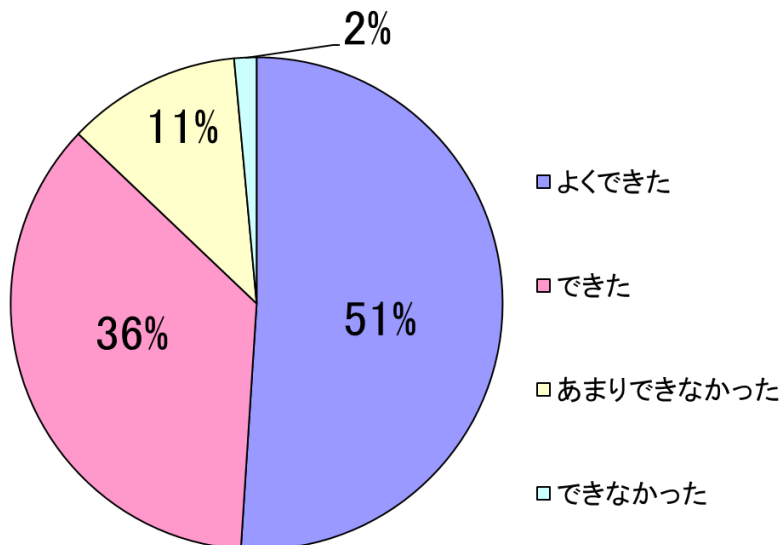
「よくできた」「できた」と回答した児童は全体の90%で、昨年度とほぼ同じ割合となった。

今年度は新型コロナウイルスが第5類となり、マスク着用義務やソーシャルディスタンス、黙食などの規制がほぼなくなり。学校だけでなく社会全体がコロナ以前の生活を取り戻しつつある。

その中で9割の児童が、自分だけでなく周りの人たちの健康にも配慮して生活することができたと感じているのは、コロナ禍での健康安全への意識が高まったのではないかと考える。

日常においては、コロナウイルスだけでなくさまざまな感染症や病気を予防しなくてはならない。今後も、養護教諭や児童支援チームを中心に、自他の健康に配慮した生活を送ることができるように推進していく。

4. 体育の学習や休み時間、放課後には、体をいっぱい動かしたり、できないことに挑戦したりすることができましたか。



4. 体育の学習や休み時間、放課後には、体をいっぱい動かしたり、できないことに挑戦したりすることができましたか

【令和5年度】

よくできた 51%
できた 36% } 87%

【令和4年度】

よくできた 59%
できた 31% } 90%

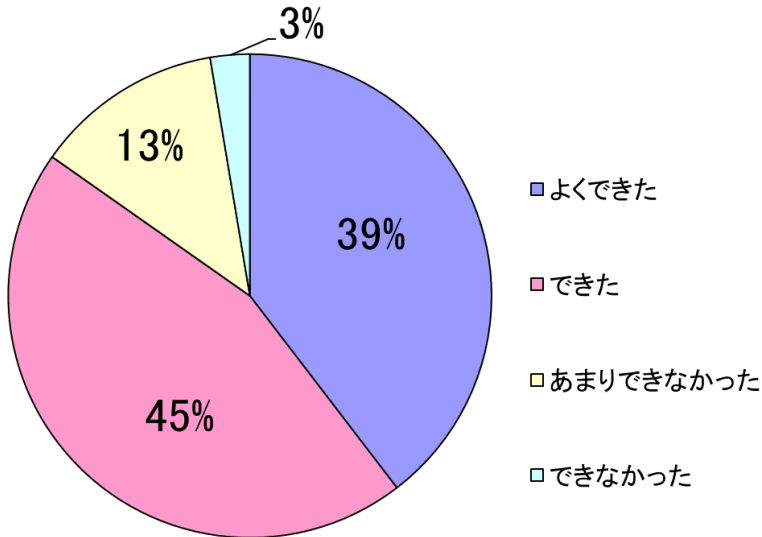
3% down

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は87%で、昨年度より3%減少した。減少したものの、中休みの校庭を見てみると、とても多くの児童が元気に運動遊びを楽しんでいる。また、体育の授業においても、思い切り走ったり、ボールを投げたりしている姿が見られる。

「できないことに挑戦する」という点においても、体育の授業においては児童が個々にめあてを設定し、それを達成するために試行錯誤しながら学習を進める姿がたくさん見られている。

来年度より、朝の校庭開放も全学年で始まる予定である。児童がより運動に親しみ、体を動かすことの楽しさに触れることができるように、今後も校庭使用の工夫等について検討していく。

5. 進んで挨拶することができましたか。



5. 進んで挨拶することができましたか

【令和5年度】

よくできた	39%	} 84%	↑
できた	45%		
			3% up

【令和4年度】

よくできた	40%	} 81%
できた	41%	

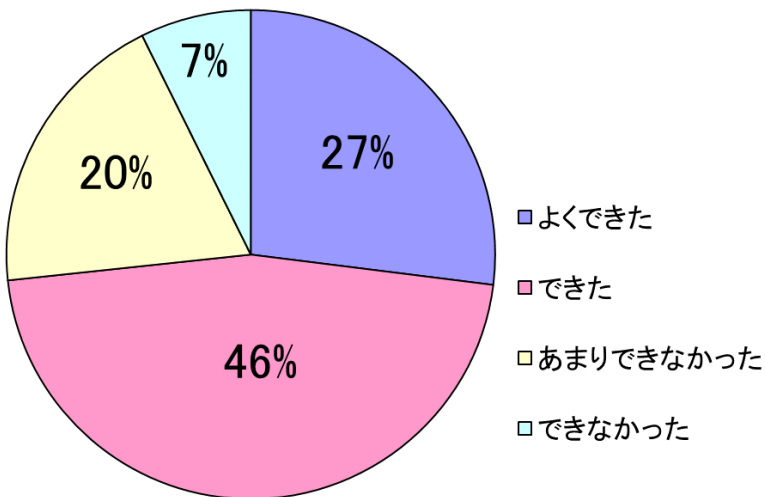
「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は84%で、昨年度より3%増加した。

後期、5年生児童の発信による「挨拶運動」が実施された。全校児童に呼びかけ、有志の児童が参加した。朝早い時間の活動となったが、多くの児童が元気よく「おはようございます」と挨拶する姿はとても清々しいものであった。

朝の挨拶だけでなく、日中に校内ですれ違うと「こんにちは」と自分から挨拶をする児童が増えてきたように感じる。各学級や学年で、挨拶の意義やよさについて指導している成果であると言える。

今後も、教職員すべてが挨拶を励行することにより、それが児童全体へと波及し、挨拶があふれる学校を目指していく。

6. 困ったり悩んだりすることがある場合は、先生や周りの友達に相談することができましたか。



6. 困ったり悩んだりすることがある場合は、先生や周りの友達に相談することができましたか。

【令和5年度】

よくできた	27%	} 73%	↑
できた	46%		
			1% up

【令和4年度】

よくできた	32%	} 72%
できた	40%	

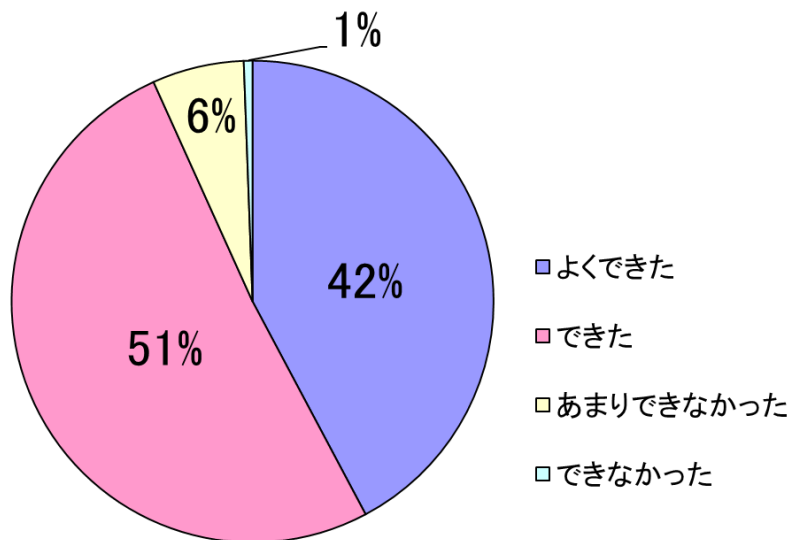
「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は73%で、昨年度とほぼ同じ割合となった。他の項目と比較すると若干低い結果となっている。

学年が上がるにつれ、児童が悩みを抱えることが増えていく傾向がある。それと同時に、大人に相談しづらいと感じる児童も増える傾向もある。

児童が悩みを抱えた際、「相談してもいいんだ」と思える関係性を築くためには、教職員が日頃から児童の様子に気を配り、ちょっとした変化にも気付いて声をかける必要がある。何気ない会話の中でも児童がSOSを出している可能性もある。何かあった時に相談しやすい関係性であることが最重要である。

学級担任だけでなく、全教職員が児童にとって「相談できる相手」となるために、今後も児童との関係づくりを工夫していく。

7. 学校のルールを守り、周りの人のことを考えて行動することができましたか。



7. 学校のルールを守り、周りの人のことを考えて行動することができましたか

【令和5年度】

よくできた 42%
できた 51% } 93%

【令和4年度】

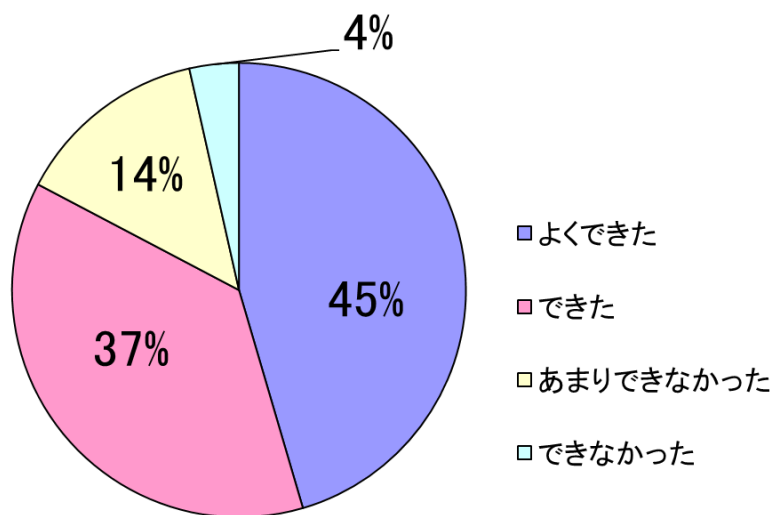
よくできた 46%
できた 45% } 91%

2% up

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は93%で、昨年度より2%増加した。9割以上の児童が「周りの人のことを考えて行動することができた」と感じていることは、他者意識が育っていると評価することができる。

「柿生小の約束」としてさまざまな場面におけるルールを決め、児童に周知しているが、児童の実態や社会的背景の変化などに応じて、約束事を見直していく必要がある。児童支援チームを中心に、現在の柿生小により適した約束となるように検討していく。また、児童に対しても、自他共に気持ちよく過ごすことができるように約束の意義や守ることの利点などについて伝えたり、考えたりする機会を設けたりしていく。

8. 困っている友達や、悩んでいる友達が周りには、話を聞いてあげたり、周りの大人に伝えたりすることができましたか。



8. 困っている友達や、悩んでいる友達が周りには、話を聞いてあげたり、周りの大人に伝えたりすることができましたか。

【令和5年度】

よくできた 45%
できた 37% } 82%

【令和4年度】

よくできた 51%
できた 38% } 89%

7% down

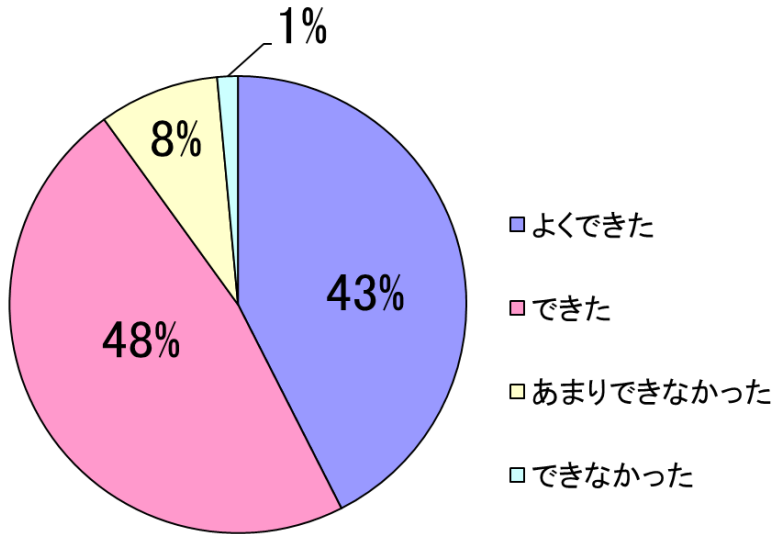
「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は82%で、昨年度より7%減少した。

減少している要因として、困ったり悩んだりしている友達が周りにいなかった可能性も考えられる。

まず、困ったり悩んだりしている友達がいることに気付くことができる心を育てる必要がある。また、その友達に寄り添い、自分のできることをしようとする行動力も育てていきたい。

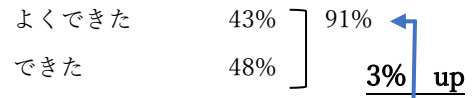
そのために、道徳科の学習や共生*共育プログラムの実践などを通して、自分も友達も大切にし、誰かが困っている時には手を差し伸べることができるような心を育てていく必要がある。また、学習以外でも、協力することや助け合うことの大切さを感じるができるように、係活動や当番活動等の工夫・改善を図ることが必要である。

9. 学習では、自分の課題をもち、最後まであきらめずに取り組んだり、苦手なことやできないことにも挑戦したりすることができましたか。

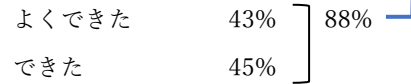


9. 学習では、自分の目標をもち、最後まであきらめずに取り組んだり、苦手なことやできないことにも挑戦したりすることができましたか

【令和5年度】



【令和4年度】

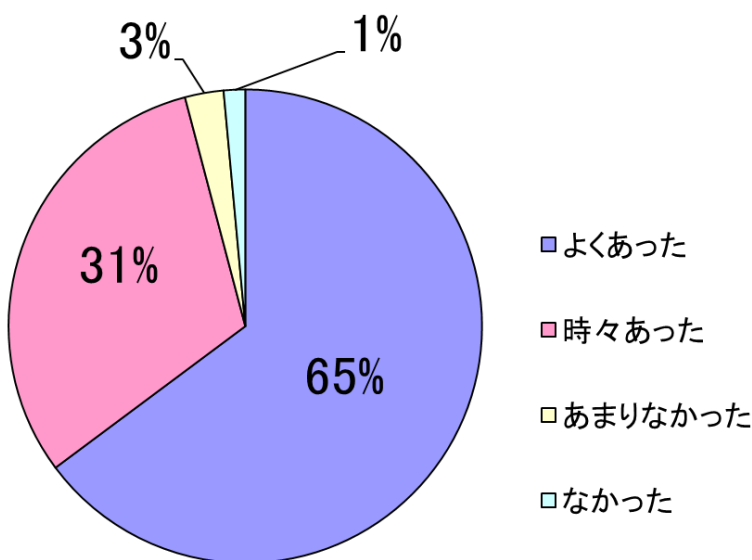


「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は91%で、昨年度より3%増加した。

校内研究や日々の授業実践を通して、児童が課題をもち、その解決に向けて試行錯誤しながら学習を進め、その中で自分の考えを深めていくことができるような授業計画を進めてきた。9割以上の児童が「諦めず最後まで取り組むことができた」と感じていることは、日々の研究・研修に一定の効果があったと評価することができる。

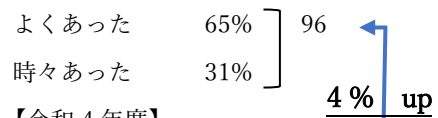
今後も、課題解決学習をより充実することができるように、授業力向上チームを中心として日々の授業改善を図ることができるように研究・研修を推進していく。

10. 授業中、「わかった」「できた」という気持ちになることができましたか。

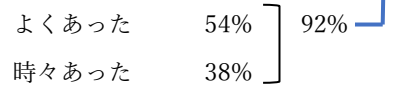


10. 授業中、「わかった」「できた」という気持ちになることができましたか

【令和5年度】



【令和4年度】

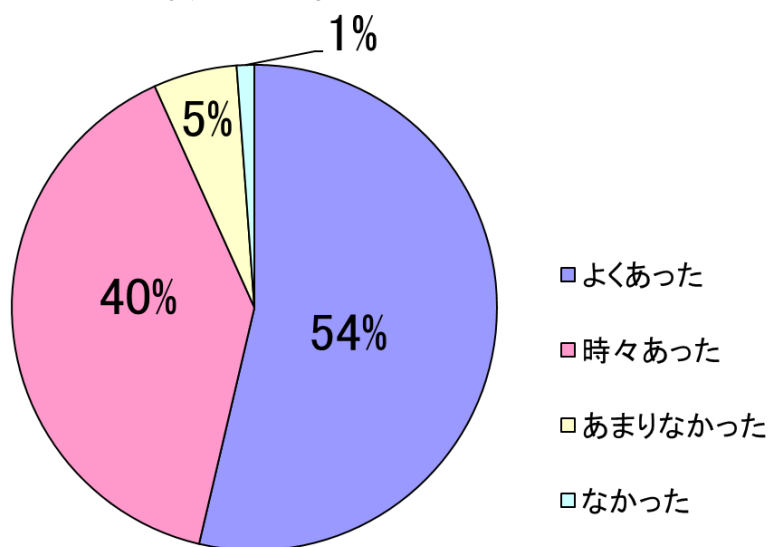


「よくあった」「時々あった」と回答した児童の合計は96%で、昨年度より4%増加した。9割強の児童が「わかった」「できた」と感じながら学習に取り組むことができていることは、教職員の授業改善に一定の効果があったと評価することができる。

授業では、前項のように児童が課題をもち、その解決に向けて試行錯誤することが大切である。その課題を解決した時に「わかった」「できた」と感じ、達成感や満足感を得ることができる。それは、自己肯定感につながり、次の課題への意欲にもなる。

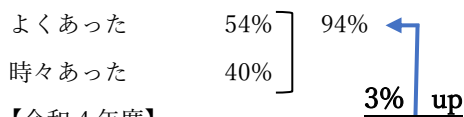
今後も、課題解決学習の充実を図るために、日々の授業改善や体験活動の充実などに尽力していく。

11. 学校生活の中で、友達に「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言ったり、友達のよいところを見つけたりしたことはありましたか。

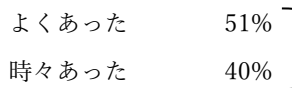


11. 学校生活の中で、友達に「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言ったり、友達のよいところを見つけたりしたことはありましたか。

【令和5年度】



【令和4年度】

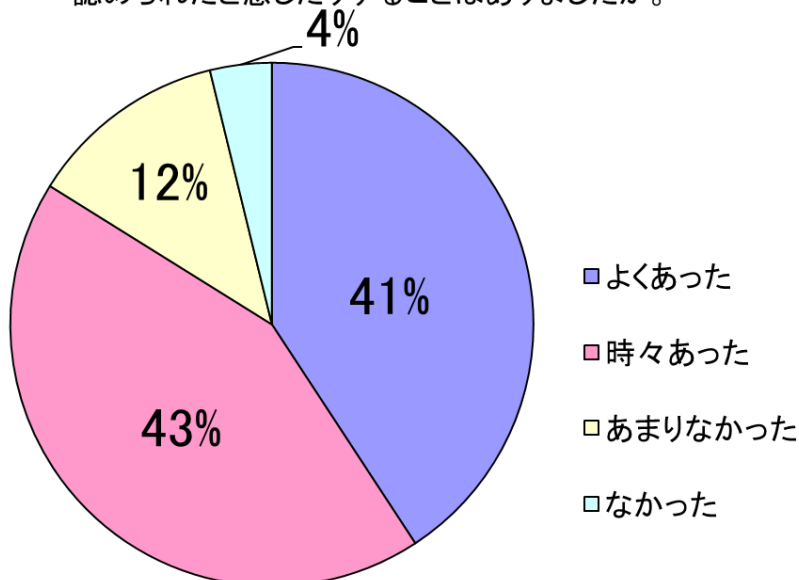


「よくあった」「時々あった」と回答した児童の合計は94%で、昨年度より3%増加した。

日々の生活の中で、友達のがんばりや成長に気が付き、それを認めて称賛を送ることができたと感じている児童が9割以上もいることはとても喜ばしいことである。

これを継続していくためには、まず教職員が児童に対して常に肯定的な言葉がけを心がけることが大切である。児童の少しの変化や成長に対して「がんばったね」などと声をかけることで、児童が前向きな気持ちになり、児童相互でもそのような雰囲気となることを期待したい。

12. 学校生活の中で、先生や友達から「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言われたり、認められたと感じたりすることはありましたか。

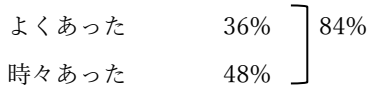


12. 学校生活の中で、先生や友達から「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言われたり、認められたと感じたりすることはありましたか

【令和5年度】



【令和4年度】

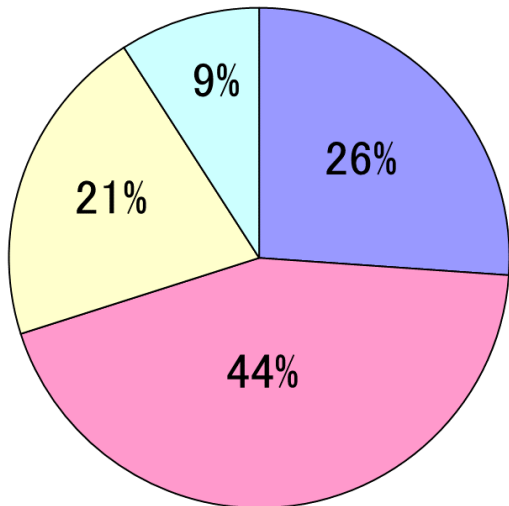


「よくあった」「時々あった」と回答した児童の合計は84%で、昨年度と同じ割合となった。

「友達にプラスの言葉を言ったり、よいところを見つけたりしたことがあったか」が94%だったのに対して、「自分は言われたことがあるか」は84%と、若干低くなっている。「人にやさしく、自分に厳しく」という思いをもっている児童が一定数いると予測される。

友達のがんばりを認めることも大切であるが、自分自身にも目を向け、努力したことやできるようになったことに対して前向きに捉えることができるように、教職員がより一層児童の成長に目を向け、肯定的な言葉がけをしていくように努めていく。

13. あなたは、自分のことが好きですか。



- とても好き
- 好き
- あまり好きではない
- 好きではない

13. あなたは、自分のことが好きですか。

【令和5年度】

とても好き 26%
好き 44%

70% ←
2% down

【令和4年度】

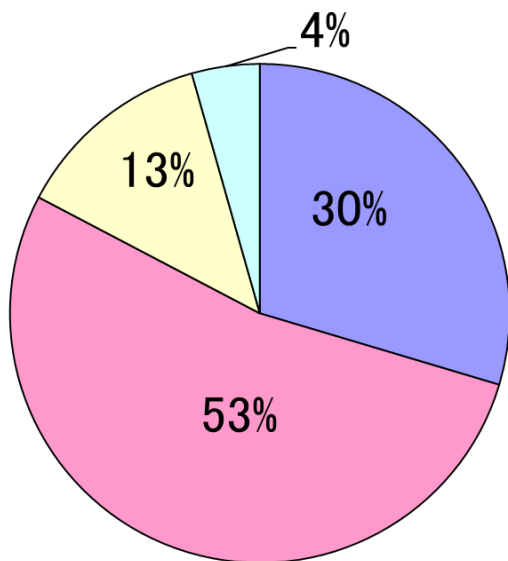
とても好き 30%
好き 42%

72%

「とても好き」「好き」と回答した児童の合計は70%で、昨年度より2%減少した。また、「プラスの言葉がけをされたり、認められたりしたことがあったか」で8割以上の児童が「よくあった」「時々あった」と感じているのに、「自分のことが好きか」で「とても好き」「好き」と感じている児童が7割に留まっていることから、他から褒められるだけでは「自分のことが好き」つまり自己肯定感は必ずしも高まらないことが読み取れる。

高学年においては、自分の努力や成長を褒められることに加えて、自身の実感が伴うことで自己肯定感が高まるのではないかと推測できる。自らの力で課題を解決し、努力が実った、成長できたと実感することが必要である。また、30%の児童が「あまり好きではない」「好きではない」と回答していることにも注目し、今後、改善していくことができるように、今後も日々の授業改善や、児童が思いを実現するために自ら方法を考えたり実践したりすることへの支援の仕方などについて検討していく必要がある。

14. 学校生活の中で、自分が成長していると感じたり、みんなの役に立っていると感じたりすることがありましたか。



- よくあった
- 時々あった
- あまりなかった
- なかった

14. 学校生活の中で、自分が成長していると感じたり、みんなの役に立っていると感じたりすることがありましたか

【令和5年度】

よくあった 30%
時々あった 53%

83%

【令和4年度】

よくあった 41%
時々あった 42%

83%

「よくあった」「あった」と回答した児童の合計は83%で、昨年度と同じ割合となった。

前項と同じく、自分の成長を感じるためには、自分の力で課題を解決したり、壁を乗り越えたりするという実感が伴うことが必要である。学習・生活両面において、児童が思いを実現するために、自分で解決方法を考えたり、試行錯誤したりすることができるように、教職員はすべてを準備する存在ではなく、時には少し距離を置いて見守ることも大切である。タイミングや内容をしっかりと見回り、適切なタイミングや内容で指導・支援することができるように、活動内容を精選したり、児童の様子に注視したりする必要がある。